

# 科学読み物分科会報告

広島 入江 洋一

資料5本、参加者は前半が8人、後半が3人でした。

## はじめに

前半、「科学読み物がとても大切」という竹内三郎さんの話  
に思わず聴き入りました。

板倉さんは、仮説実験授業を始める前は、発明発見物語のよ  
うな他の人の作品を掘り起こす仕事や、自分で科学読み物を作  
る仕事を志しておられたそうです。「仮説実験授業を提唱して  
からも、授業書にはたいていお話があって、とても大切にされ  
てきた」と。「授業書を作るとなると制約が多いし、なかなか  
大変だから、まずは、サイエンスシアターの本のような大人向  
けの科学読み物を作るといいよ」とも。

自分にとっての発見をレポートにすれば、それが一つの「科  
学読み物」になるということなら、気楽に「科学読み物」をつ  
くり始めることができます。

「これまでに積み上げられた研究会の膨大な資料の中には、  
埋もれて忘れられている研究があるはず。そんな研究を再発見  
することも大切」と、後で教えてくださる方もいました。埋も  
れた研究の再発見をするにも、「科学読み物」を作るという視  
点で探せば、見つけやすいかもしれません。

退職して授業ができなくなっても、「科学読み物」を書いた  
り研究したりすれば、退職後も楽しい。どっちに転んでもしめ  
たです。

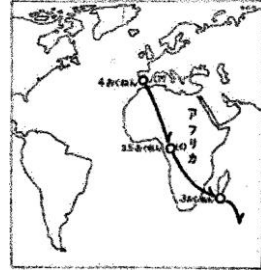
## 「砂鉄と磁石のなぞ」のなぞ 〈地球と地磁気〉 (14ペ)

・・・埼玉 実藤 清子

『砂鉄とじしゃくのなぞ』の〈アフリカを北磁極が通る話〉に何の疑問も持たずに今までいました。

でも〈岩波科学映画「流れ動く大地」〉と〈「大陸移動説とその証明」『砂鉄とじしゃくのなぞ』を元にした授業プラン〉の〈北磁極の動き〉が違っていたのです。

「アフリカ大陸での磁極は、〈南磁極〉の間違いではないか」と思いました。そこで、「なぜ北磁極なのか」その根拠を探ることにしました。



このことを考えるには「磁極の移動」と「大陸や海洋底の移動」だけでなく「地磁気の逆転」も考えに入れる必要があります。

ところが、「地磁気が逆転することを知らなかった」という実藤さん。

ブラケットやターリングの調査によって、地磁気が逆転することが知られ、日本でも岩波映画などで紹介されました。板倉さんの『砂鉄とじしゃくのなぞ』が出版されたのは、そのころのことです。板倉さんは、当時の最新知識を絵本にしておられたのです。

板倉さんの研究のあとをたどって分かったことは・・・・・・

〈ラウンケル先生と地球の植物〉(23ペ)・・・埼玉 実藤 清子

板倉さんが、《豆と莢》の授業書を作るための研究をするときに、ラウンケルという人に注目されていたことを知って、始めた研究だそうです。

あなたは〈地球の植物〉といったとき、どのようなイメージを持ちますか。私は身近な街路樹や家々の庭の花々を見るのは好きですが、とても地球まで考えたことはありませんでした。

その〈地球の植物〉の分布に法則性があると知って、私は驚いてしまいました。いろいろ調べていくことで広がる世界は、まったく知らなかった世界だったので。

ラウンケルは、その調査をおこなうために、それまでの〈植物の分類の見方〉を変えました。　　（「前書き」より）



ぼくは、「植物」が苦手で、名前がなかなか覚えられない人ですが、このプランができたなら、まわりにいっぱいある植物のことが違って見えてくる気がしました。

『妖怪学入門』をお勧めします 板倉さんの講演記録が載っていました(2ペ)・・・・・・・・・・・・・埼玉 実藤 清子

板倉さんの講演記録「井上円了の妖怪学—その今日的な意義」が載っている本『東洋大学井上円了記念学術センター編 妖怪学入門 えっせんでいあ選書9』（すずさわ書店、2000年刊）の紹介

です。この本は、井上円了没後 80 周年記念講演会の講演記録集です。他の 5 人の方の講演ものっています。

(板倉さん) 人は絶対にAだと思っているときには、AでないBのことが起こってしまっても、Aをうそだと思わない。Aは本当でBがうそだとおもう。麻原教祖が殺人事件をおこした。あの人は神様のような男だと思っている人が「麻原が殺人者かもしれない」というのはうそだと思う。絶対にAだと思っている人は、A以外のことはみとめません。しかも自分の頭で考えたことだったらますますそうです。(妖怪学入門 181ぺ)

### お話「1年の発見」(14ぺ) . . . . . 広島 入江 洋一

地球が太陽のまわりを一周する時間が、ぴったり「1年」であるのは、どうしてでしょう。「地球が太陽のまわりを一周する時間」をはかって、それを「1年」ときめたからでしょうか。

しかし、「1年」という時間の長さは、ずいぶん昔から知られていました。たとえば、今から3000年前のエジプトでは、「1年」を365日とした暦を使っていたのです。

昔の人びとは、地球が太陽のまわりをまわっていることなど知りませんでした。それなのに、どうして「1年」の長さを知ることができたのでしょうか。

こんな疑問から始まるお話です。しかし、「疑問に完全に答えてないのでは?」という指摘がありました。裏付け調査をもとに、お話の締めくくり方を考えています。